第３回富士見市環境審議会会議録

日　　時	平成２９年３月２８日（火）	開 会　午後２時００分 閉 会　午後３時４５分	
場　　所	市長公室	出席者数	委員定数１５名中　出席者１４名
出席者	委　　員	澤田会長、木内委員、齊藤委員、中村委員、横山委員、京谷委員、千種委員、守山委員、関根委員、羽石委員、大谷木委員、細田委員、高橋委員、戸塚委員 ※欠席　須田副会長	
	事 務 局	【事務局職員】 市川自治振興部長、益子環境課長、會田環境課主査、神谷環境課主任	
配付資料	１　次第 ２　第３次富士見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） ３　第３次計画目標値９．２２％削減積算 ４　平成２８年度版「富士見市の環境＜平成２７年度実績＞」 ５　平成２９年度環境施策について ６　第２次環境基本計画中間見直し事業　策定スケジュール（案）		
公開・非公開	公開（傍聴　０名）		

内　容

第２回環境審議会

１　開会　環境課長

２　議事　澤田会長

（１）　富士見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について

（会　長）次第（１）富士見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について、事務局より説明願います。

＜事務局より前回の会議で意見のあった、計画の削減目標値９．２２％の積算について、資料により説明＞

（委　員）二酸化炭素の削減目標の積算内訳のうち、職員の取組による削減１５０ｔにつ

いて数字の根拠が必要と考えるがいかがか。

（事務局）事務の効率化や不必要な照明の消灯など、さらなる職員の努力で達成できると考えている。

（委　員）削減目標の積算の内訳を合算すると７９０ｔになり、最低限の達成値である７５１ｔを上回るということになるので、積算根拠はあった方がいいのではないか。

（事務局）目標値７５１ｔの達成を上限とした積算内訳という提示の仕方もあるが、差し引きで積算すると、職員の取組による削減の積算がより小さくなってしまう。可能であれば目標値達成以上を目指して前向きに努力するという熱意も含め、目標としている１５０ｔという数値でお示ししている。

（委　員）空調の改修の際、機器の選択によっては使用電力を減らせるのではないか。

（事務局）改修内容によって電力は変わるので、使用電力については、空調改修の担当課と調整していきたいと考えている。

（委　員）職員のこまめな節電努力も大事だが、現状の設備面を改良できなければ苦しい状況である。今の空調設備自体を取り替えることはできないのか。

（事務局）庁舎自体が古いこともあり、現状として空調設備自体の取り替えは、難しい。

（委　員）先ほどの職員の取組に関する積算もそうだが、空調についても積算根拠として弱いと思う。

（事務局）機器の改修はあくまで予定になるため、現状では概算数字になってしまうことをご理解いただきたい。

（委　員）職員の取組で、電気の使用量は毎月わかるものか。わかるのであれば、ぜひ各課に対して積極的なフィードバックを行ってもらいたい。

（事務局）なるべくこまめにフィードバックできるよう検討する。

（委　員）職員数が増えたり、残業が増えたりしても、使用電力に差が出ると思う。残業を減らす取り組みはあるのか。

（事務局）ノー残業デーやリフレッシュデイの取り組みはある。

（委　員）他の日に倍の残業をすることにならないよう、業務の改善が最重要である。

（委　員）庁内で共通認識をもつことが重要だと思う。記載設備のことなどもあるので、環境審議会としての意見などを課を超えてもっと上層部に働きかけを行う機会があるとよいと個人的には思う。

（委　員）これまでの審議内容を踏まえても、職員の努力による削減が積算差である１１０ｔでなく１５０ｔというのは根拠が弱いと思う。計画上、この数字を採用することが最終決定でよいのか。

（事務局）本審議会のこれまでの審議と、庁舎内での調整の結果、この数字で決定したいと考えている。

（委　員）いまは概算であるがこれから取り組みを進めながら、建設的に、前向きに論議していくことが大事である。

（事務局）５月に行う職員研修では、何をどのくらい努力すればどれくらい削減できるのかを示しながら、意識づけを行いたい。

（委　員）電子機器や空調機器の耐用年数から、更新を予測できるか。

（事務局）計画による設備更新であるため、耐用年数はあまり参考にしていない。

（２）　平成２８年度版「富士見市の環境＜平成２７年度実績＞」について

（会　長）次第（２）平成２８年度版「富士見市の環境＜平成２７年度実績＞」について、事務局より説明願います。

＜事務局より資料に基づいて説明＞

（委　員）ららぽーと富士見周辺の住人である自分としては、自動車の往来が増えたのに大気調査の数字に大きな変化がないことが不思議である。歳末商戦やバーゲン時など、一番車の多いときに計測してはどうか。

（事務局）環境調査は例年同時期の測定を行っており、蓄積されたデータを比較することにより環境が悪化していないかを監視するものであり、現調査は最大値の測定が目的ではなく、平均的な数字を観測しているものである。

（委　員）目でみた感じの車の往来から考えると、二酸化窒素の数字がもっと上がっていてもよいと思うが、結果は科学的な調査によるものなのか。いつも同じ調査員か。

（事務局）入札により選定された、環境調査会社によって、科学的手順で実施されている。科学的測定結果である証明書もある。

（委　員）数日に渡る２４時間監視、車の往来の多い時間帯も夜中の往来のない時間も測定した平均値であり、大気測定としては一般的な調査である。自身も測定経験があるが、当然、ラッシュ時と夜中で数字に差があることは確かである。

（委　員）生活環境においては、心情的に悪い影響を受けたときの印象が残りやすいと思うので、中立の立場から改めて確認だが、大気汚染については基準を超えていないことが事実ということで間違いないか。

（事務局）間違いない。環境報告書なので客観的な事実を記載をさせていただくが、測定方法の注釈を加えるなどの配慮を行う。

（事務局）来年度以降の数字も注意深く監視していくので、ご理解いただきたい。

（委　員）二酸化窒素濃度について、どの地点も夏より冬の方が高いようだが。

（委　員）二酸化窒素は空気の流れ具合に影響されるため、大気流動が少ない冬は一般的に数字が高くなるものである。

（委　員）太陽光発電システム設置補助の申請件数は今後も減っていく見込みか。

（事務局）売電価格の下落の影響は大きく、申請件数は減っている。次年度より、発電能力１０キロワットの上限を撤廃し、他の再生可能エネルギー補助も実施するので、再生可能エネルギー設備の設置が伸びるよう期待したい。

（３）平成２９年度環境施策について

（会　長）次第（３）平成２８年度版「平成２９年度環境施策について」について、事務局より説明願います。

＜事務局より資料に基づいて説明＞

（委　員）アライグマ対策の現況はいかがか。

（事務局）平成２６年度から捕獲を開始している。職員はわなの設置研修にも参加し従事者資格を取得して対策にあたっている。

（委　員）危険な動物なので、今後も積極的に捕獲を行ってほしい。
（委　員）コージェネレーションを推進する取組みは検討しているか。
（事務局）今回の再生可能エネルギー補助の予算には計上していないが、他の市町村の動向を見ながら、引き続き検討していきたい。

※来年度の審議会開催予定について
＜事務局より第２次環境基本計画中間見直し事業策定スケジュール（案）に基づいて説明＞

３　あいさつ　自治振興部長

４　閉会　環境課長